

蘇原駅前広場が完成

まちを育てていく場所に

蘇原駅前広場は、市景観アドバイザーの名古屋市立大学の野野暁彦・准教授らに助言を受け、「電車の乗り降りだけでなく、交流が生まれる場所」をコンセプトに整備。学生からの提案を受け、安全なロータリーやバスの停留所、250台分の駐輪場、モニュメントベンチなどが設けられました。

3月23日、同広場で完成式典を挙行。浅野市長は「学生から感性豊かな提案をいただき、素晴らしい広場になりました」と、感謝を述べました。



家族で伊木山トレッキング

市民カメラマンフォトルポ

今号は大澤里美さんの作品を紹介します。市ウェブサイトでは、たくさんの写真を公開中。ぜひご覧ください。



参加者は「絶景コース」と「尾根コース」の2つに分かれました。伊木山を登りながら、タラヨウの葉に文字を書いたり、コシダでバッタ遊びをしたり、ウラジロで飛行機を作ったり。トレッキングを楽しんだだけでなく、伊木山全体からいろいろなことを学んでいました。(3月16日)



さくらジャパンと交流



日本代表選手の技術を体感!

パリオリンピックへの出場が決定した、ホッケー女子日本代表「さくらジャパン」。3月31日、市にゆかりがある、永井友理さん、小川里佳さん、鈴木美結さん、小林愛実さん、高島瑠唯さんが、川崎重工ホッケースタジアムで、小・中学生約70人と試合形式で交流しました。

小学校高学年チームの宇野寿流さんは「日本代表選手のパスやドリブルの技術に驚きました」と、選手との交流を楽しんでいました。

令和6年度 新就職者激励の集い



新社会人としての第一歩を祝福

4月1日、産業文化センター1階あすかホールで、令和6年度「新就職者激励の集い」が開催。各務原市雇用・人材育成推進協議会、市、各務原商工会議所の共催で行われ、市内37事業所187人が参加しました。

新就職者を代表して、榎本ビーエー株式会社の谷口巧衛さんが、「会社やこれまで支えてくださった方、そして自分自身のため、それぞれの職場で力を発揮したいです」と、誓いの言葉を述べました。

子どもたちが、夢や目標、市への誇りを持てるよう、身近なものを作る市内企業の「ものづくりへの思い」などを紹介します。



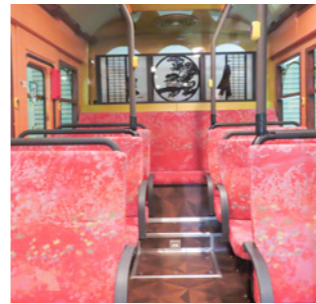
あれもこれも各務原生まれ!

No. 14

デザインバス 岩戸工業株式会社



この会社では、観光地などを走る、デザインバスを作っているよ。天井をガラスにしたり、まちに合った外装にしたり、世界に1つだけのバスを作っているんだ。



「できないを言わない」が会社のモットー。「内装を和風にしたい」、「中から空を見たい」など、さまざまなお客様の思いに応えるため、技法や素材など、新しいことにも挑戦しているよ。



デザインバスは、バスごとに形が変わるため、ほとんどを手作業で作るんだ。塗装も、バス1台をすべて人の手で行うよ。その日の気温や湿度に合わせて、毎回、塗り方を変えているんだ。

市子ども会育成協議会会長や顧問として、30年以上、子ども会活動に貢献

野中 好子さん

77歳。元気の秘訣は「よく食べ、よく寝ること」。コーラスや体操など、好きなことをとことん楽しめます!

幼い頃から、子ども会が大好き!

子どもたちが交流する場として、地域に設けられる子ども会。各務原がせ町の野中好子さんは、市子ども会育成協議会会長や顧問などとして、30年以上に渡り、市内の子ども会活動の充実に貢献してきました。野中さんは幼い頃から、子ども会が大好き。ラジオ体操や火災予防の啓発で、違う学年の友だちを作りました。また、父が子ども会に関わっており、「将来、私も子ども会を支えたい」と、父の姿に憧れました。娘が小学生になった、昭和63年、野中さんは、校区の子ども会の代表である育成会長に就任します。新入生の歓迎会やクリスマス会など、子どもと同じ目線で、子ども会を運営しました。平成14年、野中さんは、

市内の子ども会をまとめる市子ども会育成協議会会長に就任。不安もありましたが、「できることをやろう」と決意しました。当時、市内の子ども会が集まるイベントは、小学6年生が劇や歌を披露するものでした。野中さんは「学年の違う子どもたちが交流できる機会にしたい」と、全学年が一緒に活動する形を提案。新たな形に戸惑う人にも丁寧に説明し、子どもたちが主体となり運営する現在の「かかみがはらっ子大集合」を作り上げました。現在、野中さんは、市子ども会育成協議会の顧問として、役員の相談に乗っています。「子どもも大人も笑顔になれる子ども会になってほしい」と、今後も子ども会を支えていきます。

